

会 議 要 旨

会議名	令和3年度第1回館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日	令和3年10月8日(金) 13:30～15:00
開催場所	館山市コミュニティセンター 1階 展示ホール
出席者	館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン懇談会委員 15名 館山市：市長、副市長、事務局(4名) 南房総市：2名(オブザーバー) 安房地域振興事務所：1名(オブザーバー)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 非公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	1名
会議概要・結果等	<p>1. 開会</p> <p>2. 市長あいさつ ・館山市長挨拶</p> <p>3. 委嘱状の交付 ・各委員に対し、館山市長から委嘱状の交付</p> <p>4. 委員紹介 ・委員15名が自己紹介</p> <p>5. 議事</p> <p>(1) 会長・副会長の選任について 会 長：鳴田真也委員 副会長：小高栄二委員</p> <p>(2) 定住自立圏構想について ・定住自立圏構想の概要について、事務局から説明。 (資料3～5) 【質疑応答】 なし。</p> <p>(3) 館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョンについて ・館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョンについて事務局から説明。(資料6～8及び参考資料) 【質疑応答】 (八代委員) 鳥獣害対策がありませんが、イノシシなどは市境に関係なく動くので、共同でやるべきではないかと思えます。農業に対する被害が大きく、空き家紹介中にも被害の拡大を感じています。移住促進にも</p>

関わり、非常に危機感を感じています。

(事務局)

有害鳥獣対策については、共生ビジョンには掲載していませんが、中心市宣言書には産業振興の項目に「甚大化する有害鳥獣被害への対策」という施策として位置付けています。その後、形成協定や共生ビジョンの案を作成する段階で両市の事務局レベルで検討をしてきましたが、具体的な取組の想定ができなかったため、現時点でビジョンには掲載できておりません。移住促進の件も含めて御意見をいただきましたので、再度両市で検討してまいります。

(本間委員)

共生ビジョン中の課題やブランドメッセージで教育環境に関して挙げられています。共生ビジョンの事業で、例えば幼児教育から高等教育まで、これを2市でどのようにしていくかという話があれば、入れていただければと思います。最近、中学・高校への進学で、君津・木更津方面へ行ってしまう方が結構いると思います。外に行って学ぶことを否定はしませんが、地域の中に選択できる教育環境があり、そこを地域の人が積極的に選べるような状況になれば素敵だなと思います。教育環境の充実についてもビジョンに入れていただけたらと思います。

(事務局)

子育て支援の項目は、まだ具体的な事業名や取組がお示しできていないので、具体的なことは申し上げられません。教育の選択枝を増やす、環境を整えるというお話については、館山市では平成26年度から、市内の高校の校長先生にお集まりいただき、毎年意見交換会を行っております。ここ数年は、高校進学、むしろ中学への進学段階で、学力が高い生徒達が木更津方面に進学してしまう状況が続いており、校長先生方も課題を認識されております。まだ具体的なアクションができておりませんが、館山市、南房総市共通の課題として、県に対して一緒に要望活動をするなど、両市で検討していきたいと思います。

(副市長)

中心市宣言書には教育・文化・スポーツの分野の個別の案件があります。市内の高校の校長先生達との意見交換会は、5、6年前に全ての高等学校が定員割れを起こしたことをきっかけに始まりました。この地域から、君津、木更津、千葉に通っている子供の数は変わりませんが、トータルの分母の人数が減っており、非常にピンチな状況です。高校の存続や魅力の創出について、具体的に検討し、実施につなげていければと思います。館山総合高校はグルメ甲子園や、飲食、食品などで特色を出しておりますし、安房拓心高校も様々な分野で頑張っております。県の方も高等学校の再編に関連した会議を行っておりますので、そういったところに両市としてもアプローチしていければと思います。

(室委員)

共生ビジョンの事業項目でいろいろな分野が上がっておりますが、メリハリをどのようにつけるのかということをお聞きしたいと思います。観光、移住定住、公共交通は別々にやる意味がないくらい、一緒にやった方が良いと思っています。また、事業の分け方にもちよっと違和感があります。観光の振興が大きな1「生活機能の強化に係る政策分野」に入っていますが、資料3では、大きな2「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」の中に入っております。移住定住や観光、関係人口を増やすとなると、観光の分野は大きな2に含めた方がわかりやすいと思います。

(事務局)

資料7の事業項目一覧で、観光が大きな1「生活機能の強化に係る政策分野」に入っているということですが、これは共生ビジョンの前に作成した形成協定書で、観光を大きな1に位置付けているためです。資料3の内容を見ますと、大きな2の方が内容的に近いかもしれないので、位置づけについてはもう一度精査したいと思います。現時点で作業部会数が11、事業数が14であります。両市の協議の中でも観光、移住定住、公共交通は特に力を入れていくべきだという認識をしております。

(杉本委員)

医療は鴨川、鋸南町も含めた3市1町が基本的な考えであり、安房の医療に携わる先生方は、行政の方々と綿密な連携を取りながら上手くやっていきたいと思っています。事業についても医療が項目のトップの割には、当たり前のようなことが書かれているので、もう少し工夫を凝らしてみてもどうかと思いました。子供が増えない限りどうにもならないというのは皆さんもわかると思います。実際増えている地域は北に行けばたくさんあり、君津市、木更津市周辺は、移住したくなるような施策、表現を一生懸命やっているなというイメージがあります。この安房地区にもかなりのエネルギーがあるので、それらを上手に活かし、どんどんアピールしていただきたいと思います。この地域は、医療に掛かる住民数と医療機関のバランスが良いです。都会では行く所がないという現状もありますから、そこは強調しておきたいと思います。

(事務局)

2市で実施していく事業がもう少し中身があってほしいとのことですが、両市の作業部会、事務局で事業内容について精査し、検討を進めていきたいと考えております。2つ目の移住、子育て環境について、安房地域も人を呼び込める環境が整っているとのこと、また、木更津、君津も実績を上げているということですので、こういった事例も参考にしたいと思います。館山市の移住相談業務を「おせっかい」をお願いしているので、委員の八代さんとも連携しながら、魅力的な地域づくりをし、子供を産み育てやすい、子育て世帯が移住

してしやすい地域になるような事業を進めていきたいと思っています。

(副市長)

木更津、君津周辺は、アクアラインの800円化が非常に功を奏していると思います。また、流山市はつくばTXの関係もあり、「母になるなら流山」という、シティプロモーションも非常に上手く、若い子育て世代を引き込んでいると思います。「おせっ会」による移住定住政策は、フォローもしっかりしており、非常に定着率が良いので、そういうところを伸ばしていければと思います。また、医療関係では、安房医師会の下、ワクチンの接種率が千葉県の接種率よりも10ポイントほど高い数字が出ています。安房医師会と地元の4市町が連携して、様々なシステムを作った結果だと思っています。南房総市と館山市の2市の定住自立圏を成功事例として、安房4市町に広げ、病児病後児保育など、地に足のついた医療提供、医療人材の確保に繋げていければと思っています。

(小高委員)

私は館山市の総合計画審議会の委員にも入っておりますが、この事業項目を見ると、相当数重なっている気がします。南房総市でも総合計画があると思います。そこの足並みが揃わずに、同じテーマをそれぞれがやるというのは、実効性が伴わなくなるのではないかと感じます。その辺はどのように進めていかれるのか、教えていただければと思います。

(事務局)

事業項目については、両市の基本計画で重点的に進める事業をベースにしておりますので、共生ビジョンの事業項目と両市の基本計画の事業で、齟齬が生まれるということはないと考えております。定住自立圏構想における両市の事務局が基本計画を策定する館山市企画課と南房総市企画財政課ですので、その辺も考慮しつつ事業項目を選定し、ビジョンの作成を進めていきたいと考えております。

(4) 今後の進め方について

- ・今後の進め方について、事務局から説明。(資料8)

【質疑応答】 なし。

(5) その他

- ・なし。

6. その他

7. 閉会